

若い皆さんへ

☆真珠湾攻撃から76年

― 君たちが戦場に行かないために ―

太平洋戦争はどのような戦争だったのか

◆若い皆さん、皆さんは、日本がアメリカと戦争をしたことがあることを知っていますか？ 実は76年前の十二月八日、日本は、アメリカに通告なしに突然ハワイの真珠湾を攻撃しました。

◆当時、日本は中国をはじめとするアジア諸国を侵略していて、アメリカなどがこれを批判し、日本に圧力を加えていました。これに対して日本は、これは自衛の戦争だと言って真珠湾攻撃に打って出たのでした。

◆これに怒ったアメリカが連合軍を結成して日本に反撃に出ました。これが太平洋戦争の始まりです。戦場に送られた多くの若い命が犠牲となりました。

自衛の戦争だったという誤った解釈

◆靖国神社に行くと、あの戦争は日本の自衛の戦争だったと誤って書いてあります。現在の日本人の多くはこの考えに傾いてきています。だから日本はまだ近隣諸国に謝っていません。その点、ドイツ近隣諸国にきちんと謝りました。

憲法9条改訂の底にある危うい考え

◆先の衆議院選挙で改憲勢力が三分の二を超え、憲法改正発議ができるようになった。その本丸は、第9条です。なんとかまた戦争の出来る条文にしようというもくろみが見えます。

◆その根底にあるのは、あの戦争は自衛の戦争であり、自衛の戦争はゆるされるという考えです。しかし、戦争を始めるとき「これは侵略戦争だ」と宣言する国はありません。みな、自衛の戦争だと言って戦争を始めるのです。

◆現在の憲法9条は、一切の戦争を放棄し、戦力も持たないと宣言しています。しかし、何の落ち度もないのに攻められた場合は、実力で自衛が認められるというのが、一貫した政府のぎりぎりの解釈でした。（専守防衛と言います）

◆しかし、安倍政権は、それをひっくり返し、何も攻められていなくても、同盟国から頼まれれば海外に出て行って一緒に戦争をする新安保法を強引に作ってしまいました。「自衛のため」という理屈ですが、専守防衛ではありません。

☆戦争が始まれば戦場に送られ、真つ先に命を落とすのは若い皆さんです。歴史をしつかり学び、いまの憲法を守って、命を大切にして下さい。

二〇一七年十二月十日（日）護憲平和行進（通算六一〇回目）

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五

日本国憲法 第九条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。